

10
/ 12
sun

PTMF実践研究会

13:00 -
15:30

オンライン
(zoom) 開催



PTMFは、イギリスの心理学者と複数名の精神保健サービスユーザーとの協働によって開発された、従来の精神科診断基準とは異なるフレームワークです。

昨年COMHCaでは、2023年に北大路書房から出版された『精神科診断に代わるアプローチ PTMF』の読書会を開催しました。今年度以降は、どのように自分たちの実践に活かせるのかを互いの経験から学び理解を深めていきたいと思っています。

第1回は、COMHCa共同代表で精神科医師の松本衣美、同じく共同代表で作業療法士の真嶋信二、そして、札幌市において地域支援に携わる精神保健福祉士の遠藤芳浩氏による活用法をお話いただきます。

第一話：

『PTMFの紹介と精神科診療における活用』

松本衣美

第二話：

『相談支援における活用』

遠藤芳浩

第三話：

『セルフケアにおける活用』

真嶋信二

定員：30名

対象：精神保健医療福祉領域の対人援助職者、経験専門家、ピアサポーター

会費：会員無料 非会員1000円

お申込み：peatix (<https://20251012.peatix.com>)

お申込みQRコード➡



主催 | 一般社団法人COMHCa

PTMF実践研究会



『精神科診断に代わるアプローチ PTMF：心理的苦悩をとらえるパワー・脅威・意味のフレームワーク』北大路書房

『精神科診断に代わるアプローチ PTMF：心理的苦悩をとらえるパワー・脅威・意味のフレームワーク』は、英国の臨床心理士メアリー・ボイルとルーシー・ジョンストンによって提唱されたPTMF (Power Threat Meaning Framework) の入門書であり、2023年に北大路書房から日本語版が刊行されました。

「どんなことがあなたに起きましたか？」という問いかけから始まるPTMFは、個人の心理的苦悩を「パワー (Power)」「脅威 (Threat)」「意味 (Meaning)」の三つの観点から理解するフレームワークです。このアプローチは、従来の精神科診断が持つラベリングや病名に頼らず、個人の経験や背景を重視するものです。

PTMFの実践的理解と応用を深めることを目的とした「PTMF実践研究会」を開催いたします。

本研究会は、シリーズ形式で継続的に開催し、参加者の皆様がPTMFの理解を深め、実践に活かすための場を提供いたします。また、各回で皆様からの実践報告の共有も予定しており、互いの経験から学び合いたいと思います。

第1回 PTMF実践研究会

ファシリテーター：下平 美智代

- 1) 開会
- 2) PTMFの紹介と精神科診療における活用(40分)
松本衣美
- 3) 相談支援における活用(30分)
遠藤芳浩
- 4) 休憩(10分)
- 5) セルフケアにおける活用(30分)
真嶋信二
- 6) 質疑応答・意見交換 (30分)
- 7) クロージング

話題提供者

松本衣美

精神科医。都内クリニック勤務。アウトリーチに従事した経験を持ち、『病』ではなく、いかにその人らしさを支えることができるかに関心を持っている。

遠藤芳浩

精神保健福祉士。札幌市内にある相談支援事業所にて自立生活援助に従事。自分の人生を生きることが応援したいと思いながら、日々訪問支援を行っている。

真嶋信二

作業療法士。誰もがケアし、ケアされるCare-Fullなまちづくりに関心があり、ケアする人のケアの仕組みや、人々が支え合える対話の仕組みづくりに取り組む。